

研究名：重症小児における超音波ガイド下経腸栄養チューブ挿入

1．研究の目的

栄養のおさまりが悪い小児では経腸栄養チューブが挿入される。小児では一般的に透視下で行われるが、PICUに入室している小児では移動のリスクがあるためベットサイドで挿入される。しかし、有効な挿入方法は確立していない。正しく挿入できないと栄養開始が遅れるとともに経腸栄養チューブの位置確認のためにレントゲン撮影回数が多くなる。超音波下経腸栄養チューブ挿入が有効であることを示せれば、栄養開始が早くなりレントゲン撮影回数が減る。

2．研究の方法

研究対象：2017年4月から2019年12月にPICUで経腸栄養チューブを挿入された方

研究期間：倫理審査委員会承認後～2020年12月

研究方法：PICU内で超音波を使用して経腸栄養チューブを挿入した際の成功率や挿入時間を診療録を用いて後方視的にまとめる。

3．研究に用いる情報の種類

患者背景、基礎疾患、経腸栄養チューブの挿入時間、レントゲンでのチューブの位置など
患者さんの氏名など、本人を特定出来る一切の個人情報は調査対象ではなく、個人情報は保守されます。

4．情報の公表

関連する学会での発表および医学誌への論文投稿を行います（個人情報は含まれません）。

5．研究実施機関

国立成育医療研究センター

6．お問合せ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、8月31日までに下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

国立成育医療研究センター 集中治療科 大澤一郎

住所：〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1

電話：03-3416-0181（内線：7882）

研究責任者：

国立成育医療研究センター 集中治療科 大澤一郎